

## 令和7年度 浜松市国語科研究部 第1回研修会報告

1. 日 時 令和7年5月21日(水)

2. 会 場 1ブロック：葵が丘小 2ブロック：江南中  
3ブロック：北浜中 4ブロック：細江中



3. 内 容

### (1) 研究テーマの提案 【国語科研究部長】

国語部の今年度の研究テーマは、「自ら学び『言葉の力』を実感できる単元の創造」である。その研究テーマにおいて重要な3つの視点を提案した。

- ①言葉による見方・考え方が働く学習課題、言語活動を設定する。
- ②児童生徒が、自ら学びを調整できる場面を設定する。
- ③学習を通して、言葉の担い手としての成長を、児童生徒自身が実感できるようにする。

その中でも今年度は3つ目の視点である「児童生徒自身が成長実感を得られる授業づくり」を意識して主体的に実践に臨んでいこうという国語部としての指針を示した。

### (2) 指導主事講話 【浜松市教育センター 指導主事】

「自ら学び、『言葉の力』を実感できる単元の創造」という国語部の研究テーマを受け、「求められる学び」と関連付けて御講話いただいた。「言葉による見方・考え方が働くような言語活動の取組の中で、学びを調整する場を設定する。そうすることで、児童生徒が自身の成長を実感することができる場面が生まれ、深い学びにつながっていく。」と具体的な実践例を示しながら、分かりやすくお話しいただき、貴重な学びの場となった。

### (3) グループ協議

#### 【1ブロック】

3つの視点について、「単元構想の中でどう仕組みでいくのか」、「子供の成長実感をどのような場面で見取っていくのか」等、具体的なイメージをした。

授業担当学年ごとに、経験年数の偏りがないように3～5名で編成したグループで話をした。少人数のグループにすることで話がしやすくなった。小学校は新しい教科書になって2年目、中学校は今年度から新しい教科書になっているため、1学期の実践教材を決める際にも新教材をどう生かすか熱心に話し合う様子が見られた。時間が十分ではなかったが、1学期の実践について見通しをもつことができたように思う。

#### 【2ブロック】

グループワークでは、「言葉の力」を実感させるためにどう単元を仕組むのか、どんな発問をしていくか等、同学年の教員同士で具体的に話し合った。同じ学年を担当する教員同士がグループになり、まずは今までの実践をふり返った。「成長を感じさせる授業構想」とは具体的にどのようなことができるのかを話し合い、お互いの実践を紹介し合った。今年度からスタートした研修の視点だったため、それぞれのグループで、「どんなことができるか」という熱心な議論が交わされた。今回の研修を受けて、1学期の残りの授

業の中でさらに実践を重ね、第2回研修会での実践報告を予定している。

### 【3ブロック】

3つの視点にそって、以下のような意見が出された。

- ①「言葉による見方・考え方」が働く学習課題、言語活動を設定する。
  - ・最終的な目標をわかりやすく、はっきりさせることで学習の見通しを持たせる。そのため、どのように子供たちと共有し、心に落とし込むかが課題である。
  - ・生活場面と結び付けた言語活動を設定したい。
- ②児童生徒が、自ら学びを調整できる場面を設定する。
  - ・振り返りを行うことが試行錯誤しながら自己調整を行いやすくする。
  - ・初読の感想から子供たちと学習課題を複数設定し、その学習課題から選択させることで、学びを自分ごととする。
- ③学習を通して、言葉の担い手としての成長を、児童生徒自身が実感できるようにする。
  - ・詩を作り、表現技法について学習した後、詩のリライトを行うことで成長実感を得られるのではないか。
  - ・「取材とメモの取り方」という既習事項を活用し、インタビューさせ壁新聞を作成することで成長を実感させたい。

### 【4ブロック】

実践に向けて、以下のような意見が出された。

- ・単元の導入で、付けたい力やゴールについて示す。そうすることで、児童生徒自身が学び方を考えながら学習の調整をすることができる。
- ・単元の最初と最後の自分の意見を比較する場を設定することで、自分の学びの変化を見取ることができる。自分の考えや振り返りはタブレットで書き溜めていくようにしたい。そうすることで、自分の学びを調整し、成長実感をより効果的に得ることができると思う。
- ・振り返りを、①本時で学んだことや改めて気付いた課題 ②次回は何をどう学びたいかという2つの視点から書かせたい。児童生徒は常に単元を通して学びのつながりを意識し、主体的に自己調整する場を設定することができる。そのためには、児童生徒がその単元で付けたい力や単元の流れを常に意識できるように、手立てを講じることが必要不可欠である。

～研修会を振り返って～

子供たちにとって、国語は目に見えて成長を実感することが難しい一面もある。しかし、成長を実感するための工夫をすることで大いに成長を実感できるということをお話から学ぶことができた。グループ協議では、「言語活動の設定」や「学びの調整」、「成長実感」について熱心な協議が行われた。振り返りや学び方の選択など、様々な意見が出たので、参加者でしっかりと共有してこれからの授業に生かすようにしていきたい。1学期中に実践を重ね、第2回の研修会では、さらに深まった協議が行われることを期待したい。